

## チリ政治情勢報告（1月）

令和3年2月

### 1 概要

- 5日、外務省は同日より開会したベネズエラ国会の正当性及び合法性を承認しない旨のコミュニケを発出。
- 11日～13日、TPP11 承認に係る政府の早急の審議・投票の要請に反して、上院は同審議を延期する旨発表。3月に審議が再開予定。
- 23日～31日、来る7月4日に実施される大統領予備選挙に向けて、与野党計5党が自党の大統領候補を選出。
- 26日及び27日、フェルナンデス亜大統領が訪智。ピニェラ大統領と会談し、二国間の協力等に係る合意に署名。

### 2 内政

#### （1）閣僚交代

ア 6日、ピニェラ大統領は、クリスティアン・モンケベルグ大統領府長官及びアントニオ・ウォーケル農業大臣の辞表を受理し、後任としてファン・ホセ・オッサ新大統領府長官、マリア・エミリア・ウンドゥラガ新農業大臣を任命した。辞任したモンケベルグ氏及びウォーケル氏は本年4月に実施される制憲議会議員選挙に出馬。

イ 26日、ピニェラ大統領は大統領予備選挙に出馬予定のブリオネス財務大臣の辞表を受理し、後任として、カトリカ大学ラテンアメリカ経済・社会政策センター（Clapes-UC）の上級委員会委員を務めるロドリゴ・セルダ氏を任命。

#### （2）大統領選挙に向けた動向

本年11月21日に実施される大統領選挙の候補者選定のため7月4日に実施される大統領予備選挙に向けて各党の党内大統領候補選出プロセスが下記のとおり進捗。

ア 6日、ラビン・ラス・コンデス区長（与党「独立民主同盟党（UDI）」）は、大統領予備選への出馬意思を正式表明し、区長における同職再選は目指さない旨発表。

イ 23日、与党「国民革新党（RN）」党内評議会は大統領予備選挙に向けた党代表としてデスポルデス前国防大臣を選出。

ウ 24日、大統領予備選挙に向けて野党「キリスト教民主党（DC）」の党内予備選が実施され、リンコン上院議員が勝利し、同議員が同党の次期大統領候補に選出。

エ 28日、野党「社会党（PS）」中央評議会在ナルバエス元内閣官房長官（バチェレ政権期）を大統領選挙に向けた同党代表とすることを決定。

オ 30日、与党「政治発展党（Evopolí）」は総審議会を実施し、ブリオネス前財務大臣を同党の次期大統領候補として選出。

カ 31日、野党「民主主義のための党（PPD）」は党内予備選挙を実施し、ムニョス同党党首（第二次バチェレ政権期の外相）を同党の次期大統領候補に選出。

#### （3）TPP11 審議の延期

ア 11日、キンテロス上院副議長（野党：社会党（PS））は、TPP11に関するあらゆる疑念が明らかになるまでは同協定の承認是非について上院において審議せず投票を先送りする旨チリ政府に通達する宣言書を発表した。同宣言書はムニョス上院議長（野党：民主主義のための党（PPD））と同副議長の連名で作成された。

イ 13日、政府はTPP11の審議に関する緊急性を6日以内の審議・投票を求める「即決審議」から15日以内の審議・投票を求める「大至急審議」への変更を決定するも上院側は応じず、2月の議会閉会を経て、新たな議会が開始する3月に同協定の審議が再開される見通し。

#### （4）新型コロナウイルス

ア 11日、ジャニェス外務省国際経済関係次官が、新型コロナワクチン「スプートニクV」を開発するロシアのガマレヤ記念国立疫学・微生物学研究センター及び開発に投資する政府系のロシア直接投資基金の代表者とビデオ会議を行い同ワクチンの確保に向けた交渉を実施。

イ 20日、チリ公衆衛生研究所（ISP）は専門家委員会において中国シノバック社の新型コロナウイルス・ワクチン使用の承認是非に係る審議を実施しチリの18歳以上60歳未満の成人を対象に同社製ワクチンを承認（27日、パリ保健大臣は、高齢者における副作用の発生は低いことに鑑み同社ワクチンの60歳以上の高齢者への接種を開始する旨発表）。政府は本年上半期中に1,000万回分の同社製ワクチンの確保する予定。

ウ 21日、ピネラ大統領は2021年新型コロナワクチン接種計画に関して、「ワクチン確保に向けた政府の取り組みの結果、シノバック社ワクチン1,000万回分、ファイザー・ビオンテック社ワクチン1,300万回分が2021年第1四半期中に到着予定であり、第2四半期中には、アストラゼネカ社・オックスフォード大学、ジョンソンエンドジョンソン社及び、Covaxから1,100万回分以上が追加で到着する予定である。合計3,500万回分以上のワクチンが2021年中にチリに到着する見込みである」と述べた。

エ 27日、チリ公衆衛生研究所（ISP）は、専門家委員会の審議結果を受けて、アストラゼネカ社・オックスフォード大学ワクチンの国内緊急利用を承認。18歳以上が対象。

#### （5）本年の優先アジェンダ

29日、ピネラ大統領は大統領宮殿にて内閣審議会を開催し、①本年上半期中に1,500万人へのワクチン接種を目指す計画及び新型コロナウイルス・パンデミックへの対応、②脆弱な家庭に対する社会的保護網（Red de Protección Social）の強化、③雇用の回復及び経済活性化、④治安・公的秩序の強化、⑤ユニバーサル・ヘルス計画（Plan de Salud Universal）の保証に基づく保健システムの改革、⑥中間層及び女性の退職者約80万に寄与する年金制度改革の第二フェーズ、⑦制憲プロセスに係る模範的な発展の保証の2021年における7つの優先事項を発表。

#### （6）南部治安情勢

ア 19日及び20日、ビオビオ州アラウコ県ティルーア市の観光客向け宿泊施設合計3軒が覆面武装集団により放火され全焼した。また、21日、同市の家屋2軒が何者かにより放火され全焼した。同家屋の所有者はマプーチェ・コミュニティの責任に言及した。なお、ティルーア市キディコ地区においては過去3年間で合計46軒の家屋への放火被害が記録されている。また、アラウコ県全体では2020年初頭から現在までに57軒の家屋への放火被害が記録されており、本年の放火事件だけでも既に10件に上る。

イ 26日、米州機構（OAS）の米州人権委員会（IACHR）は、2020年10月にアラウカニア州マジェコ県コジプジ市の Agua Buena 農園の農業従事者3名より OAS に提出された武装集団からの恒常的な脅迫に対してチリ国家による保護が欠如している旨の告発書を正式に受理し、チリ外務省に対して本件に係る報告書の提出を求める書簡を送付し、7日以内に回答するよう求めた。

### （7）不法入国者の増加

ア 18日付エル・メルクリオ紙は内務治安省が刑事警察（PDI）のデータを基に作成した報告書によると、2020年1月から11月におけるチリへの不法入国者数は13,656名に上り、うち10,213名がベネズエラ国籍、980名がハイチ国籍、682名がコロンビア国籍、675名がボリビア国籍である旨報じた。また、過去の同データによると、2019年の不法入国者は8,050名、2018年は6,310名、2017年は2,903名であった。

イ 23日、アラマン外相は不法移民への対策強化のための下記行動指針を発表した。

（ア）不法移民斡旋の影響を受けるコロンビア、エクアドル、ペルー、ボリビアといった近隣諸国の各検察当局が調査し司法判断を下すようにチリ国家検察から働きかけるようホルヘ・アボット検事総長に依頼。

（イ）同犯罪組織の捜査開始に向けて、刑事警察（PDI）が上記諸国の警察当局と調整・協力を実施するようエクトル・エスピノサPDI長官に依頼。

（ウ）外交面では、パレルモ条約（国際的な組織犯罪の防止に関する国連条約）に則り、組織犯罪対策に係る緊急オペレーションのための合意を採択する目的の外相レベルの作業部会の創設に向けてアラマン外相が上記4か国の外相に連絡を実施。

## 3 外交

### （1）ベネズエラ情勢

5日、チリ外務省は、ベネズエラ情勢に関してリマグループの枠組みの中で「2021年1月5日より開会したベネズエラ国会の正当性及び合法性を承認しない。同国会はニコラス・マドゥーロの非合法レジームにより組織された2020年12月6日の不正選挙の結果であり非合法である」とのコミュニケを発出。

### （2）フェルナンデス亜大統領の訪問

ア 26日、ピニェラ大統領は、チリを公式訪問したフェルナンデス亜大統領と両国関係の緊密化に向け会合を実施し、二国間の南部国境ポイント「サン・セバスティアン」の国境管理システム改善、運転免許証の相互運用、新型コロナウイルス感染症対策に係る特別支援のための両国の保健省間での協力等に係る3つの合意に署名した。また、両大統領は共同宣言においてチリが南米とアジア太平洋地域を接続する光海底ケーブル計画に関して両国及び地域統合にとって戦略的性質を有している点で一致した。「ピ」大統領は両国の友好関係について強調しつつ、南米とアジア太平洋地域を接続する光海底ケーブルの建設に向けて協働するための合意について発表した。

イ 26日午後、「フ」大統領はチリ上院を訪問しムニョス上院議長を始めとする上院議員団と会合した。同会合においてコキンボ市市議下院議員団とも急遽面会することとなり、「Agua Negra トンネル」の建設に関して意見交換を行った。また、「フ」大統領はポウルセン下院議長他、複数の下院議員団とも会合を実施し、同議員団は「フ」大統領が作成したベネズエラの人権状況に係る国連報告書を評価した。

ウ また、その後、「フ」大統領はシルバ最高裁長官への訪問を実施し公式行事を終えた後、ビエルサ駐チリ亜大使公邸にてアルバロ・エリサルデ（社会党：PS）上院議員、ギド・ヒラルディ（民主主義のための党：PPD）上院議員、ホセ・ミゲル・インスルサ（PS）上院議員、カロール・カリオラ（共産党：PC）下院議員、マルコ・エンリケス・オミナミ元大統領候補（左派革新党（PRO）指導者）、フアド・チャイン・キリスト教民主（DC）党首、ホルヘ・シャープ・バルパライソ市市長、カミロ・ラゴス PRO 党首ら野党幹部らとの会合を実施。

エ 27日、「フ」大統領は記者会見を行い、今次訪問の総括を実施した際に、① 光海底ケーブルへの資本上の貢献に関する亜の正式なコミットメント、② 鶏肉及び豚肉のチリから亜への輸出解禁、③ 亜がチリ国内において乗用車をより低価格で販売するための合意、④ リベルタドーレス国境ポイントの拡張の進展、⑤ 亜ネウケン州における「Vaca Muerta シェール田」のシェールガスの対チリ輸出の可能性模索に係る協議の開始の5つの合意について強調。

### （3）次期駐チリ中国大使人事

1月30日付当地エル・メルクリオ紙は、昨年10月に離任した Xu Bu 駐チリ中国大使の後任大使として Niu Qingbao 氏が就任予定であると報じた。同氏は職業外交官として、1990年代以降、豪州、米国（参事官）、印（駐ムンバイ総領事）、ニュージーランド（駐オークランド総領事）等の在外公館にて勤務した後、駐ジャマイカ中国大使を務めた他、2018年～2020年まで成都市の副市長を務めた。南米諸国での勤務経験はないものの、人民日報によると、同氏は成都市のチリ総領事館開設に向けて2019年にチリを訪問。